

# 新美南吉と詩

Nankichi×Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



## 枇杷の花の祭

枇杷の花に、枇杷の花に、  
祭があるよ。  
ひだまりに、ひだまりに、  
何かなるよ。  
のぞいたら、のぞいたら、  
小さい祭よ。  
蜜ばちが、蜜ばちが、  
祭してるよ。  
何かしら、何かしら、  
うれしいのだよ。  
風なども、風なども、  
祭にくるよ。  
ぶよくと、ぶよくと、  
たいこのようだよ。  
光るひる、光るひる、  
祭っているよ。

くまたにたかし 画家・イラストレーター

名古屋を拠点に全国各地で個展開催やアートフェアに出展。動物・植物・人をモチーフとし、物語のような世界を描き続けています。またイラストレーターとしても広告や、その他多岐に渡り活動中。

\*絵について\*

風と光と、あなたがごころのままに望むなら、たおやかで穏やかな陽だまりがきっと見えるはず。

### 新美南吉



にいみなんさち  
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

### 解説

「全き美しき世界を」詩の中に実現したい、と思う南吉の願いに応えている詩だ。毛羽だって薄緑色にくすんだ茎に、指の先ほどの白い五弁の花を群れ咲かせる枇杷の木。日だまりに咲くこの小さな花の中で祭が行われているのだ。祭をしているのは、蜜蜂たち。「何かしら」うれしそうな光景に、やがて、さわやかな風がこの祭に参加してくる。その風とともに蜜蜂たちの羽音が「ぶよ〜と、ぶよ〜と、/たいこのよう」に鳴るのだ。

透明な光がふりそそぐ、冬の真昼の祭だ。小さな小さな花の舞台上で繰りひろげられる、楽しく美しい祭。これこそ南吉の望んだ一つの詩的世界だ、とっていいだろう。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

### おしらせ

「新美南吉と詩」展  
NANKICHI×Step in ろじうら vol.4

【期間】10月20日(日)10:00~20:00

【場所】亀崎町

【HP】<http://rojiura-kamezaki.com>

Step4月号から連載中の、南吉の詩と地元を中心に活躍する若手クリエイターで綴るコーナー。作品の細部もじっくり見られるように大判サイズのパネルでご紹介。

型染めで「ごんぎつね」のカードをつくらう! in ろじうら vol.4

型染めイラストレーターワキタヨシコのイベントワークショップ。簡単な型染め(ステンシル)の方法で、好きな色や絵柄を組み合わせてオリジナルのポストカードをつくりましょう!